

2026年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社ブイ・テクノロジー  
代 表 者 代表取締役 兼 社長執行役員 杉本 重人  
(コード番号：7717 東証プライム市場)  
問 合 せ 先 IR 室長 小野 雅弘  
(TEL：045-338-1981)

## 営業外費用（持分法による投資損失）、特別損失（減損損失）、 及び法人税等調整額の計上に関するお知らせ

当社は、2026年3月期第4四半期連結会計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）において、営業外費用（持分法による投資損失）、特別損失（減損損失）、及び法人税等調整額を計上しましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 営業外費用（持分法による投資損失）の計上について

当社は、当第4四半期連結会計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）において、持分法による投資損失560百万円を営業外費用として計上いたしました。これは主に、当社の持分法適用関連会社であるXianyang CHVT New Display Technology Co., Ltd.が、生産設備に係る減損損失を計上したことによるものです。この結果、2026年3月期決算において、持分法による投資損失は、737百万円となりました。

#### 2. 特別損失（減損損失）の計上について

当社は、当第4四半期連結会計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）において、減損損失を352百万円計上いたしました。これは主に、当社の連結子会社であるジャパנקリエイト株式会社において、株式取得時に策定した事業計画で想定した収益が見込めなくなったことから、のれんの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を計上したことによるものです。また、処分予定資産について、使用中止を予定していることから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を計上いたしました。この結果、2026年3月期決算において、減損損失は364百万円となりました。

#### 3. 法人税等調整額の計上について

当社は、当第4四半期連結会計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）において、現時点における将来の課税所得の見積りに基づき、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額を545百万円計上いたしました。この結果、2026年3月期決算において、法人税等調整額は△89百万円となりました。

#### 4. 業績に与える影響

上記につきましては、本日公表の「2026年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において反映しております。

以上